

(1) 「やさしく(徳) 思いやりのある子」にかかわる内容について

- ・ 思いやりの心 ・ 美しいものや美しい心に感動する心
- ・ 規範意識や倫理観

- ① 児童による評価「友達と助け合い、いじめが起きないように気を付けている」、教職員による評価「いじめ・不登校初期対応基本方針をもとに、組織的に不登校問題や生活問題について取り組んだ」「みぶっ子いじめゼロ作戦にもとづき、いじめ防止に努め、毅然とした指導を行った」が高評価である。児童による評価「困ったことは、先生に相談している。」の評価は8割に達していない。

子供たちは、教職員の指導・支援のもと、規律と温かい交流のある学級集団の中で、楽しく学校生活を送っている。児童がいじめゼロ作戦を唱えることや、毎週月曜日の「心の天気」毎月の「学校生活アンケート」各学期の「いじめアンケート」の実施など、未然防止・早期発見に力を注いだことが意識の向上につながったと思われる。引き続き、日頃の児童の様子や児童同士のかかわりをよく観察し、児童の声に耳を傾けてながら、困ったことは相談できる関係性を構築できるよう努めていきたい。

また、担任だけで抱え込まず、早期の「報告・連絡・相談」を重視し、学年や学校全体で組織的に対応している。今後も、保護者と速やかに連携し、場合によっては、SC や SSW 等、外部関係諸機関とも連携するなど、早期解決を目指していく。

- ② 児童による評価「楽しく学校生活を送っている」、保護者による評価「子供たちは学校が楽しいと感じている」「保護者として本校の教育活動に満足している」が高評価である。

子供たちは、教職員の指導・支援のもと楽しく学校生活を送っていることが分かる。今年度は「自分も相手も大切に」を合言葉に、優しく温かな言葉を使い、相手のことを思いやる行動をとるよう働きかけてきた。これにより、児童同士が絆を深め、担任とも良好な信頼関係を構築することができ、安定した学級経営の基盤となった。児童による評価「掃除や係の仕事を、一生懸命している」が高評価で、クラスの一員として働こう、責任を果たそうとしている児童が多いことから、その様子が伺える。

一方で、集団生活に適応することや人とのかかわり、人とのコミュニケーションに困難を感じている児童がいて、相互理解や相互援助を促進させることが必要である。支援ニーズのある児童を的確に見出し、日常的な寄り添いときめ細やかな教育相談に取り組んでいく。また、「学級づくり」の時間を活用したり、「クラス共遊」を定期的の実施したりして、学級への所属感を高めていきたい。どの児童にとっても居心地のよい学級・学校となるよう今後も教職員全体がチームとなって児童支援にあたりたい。

- ③ 保護者による評価「お子さんのあいさつ(おはよう、おやすみなさい、ありがとう、ごめんなさい等)を大切に考え、家庭でも励行している」は昨年に引き続き高評価である。しかし、児童による評価「あいさつや返事は、元気な声でしている」は、保護者ほど数値は高くはない。

児童の実態をみると、家庭での励行が学校や地域で実践されているとは言い難い。地域からもあいさつに関してのご指摘を受けている。学校からのお便りや懇談会などで話題にして、家庭とともにあいさつができる壬生小の児童を育てていきたいと考える。

## (2) 「かしこく(知) 深く考える子」にかかわる内容について

- ・ 学習意欲と学習習慣 ・ 課題を主体的に解決できる力
- ・ 進んで考え、表現できる力・頑張れる気力

- ① 児童による評価「先生の授業は分かりやすい」「授業中、先生や友達の話最後までしっかり聞いている」が高評価である。また、教職員による評価では「専科教員や支援員、ALT、その他同僚との連携や協力、協働に努めることができた」が高評価である。

学習において知識・技能を習得するための取組が評価されている。「壬生町学力向上 12 施策」を意識しながら学力向上に向けた取り組みを実践してきたことや、個に応じた指導を行う朝の学習（ベリertime）の連携、専科教員による英語や理科の授業、TT による授業、算数を中心とした学力向上支援員による個別支援の充実などが評価につながっていると考えられる。また、教員間の相互授業参観「ふらっとプロジェクト」を推進し、授業力の向上に向けて取り組んでいる。引き続き、教育目標の実現を目指していきたい。

- ② 課題であった児童による評価「学校や家で、進んで読書をしている」は目標数値を達成することができた。保護者による評価「お子さんとゲームやインターネットの利用のルールや、利用時間をまもるように約束している」がそれほど高くない。また、教職員による評価「読書指導の充実を図り、感想文（一言感想を含む）【壬生町学力向上12施策より】を書く習慣が身につくよう取り組んだ」では目標数値の達成が不十分であり、読書指導の充実課題を感じている担任も少なくない。

学校では、朝の学習の時間に読書の時間を設けたり、本の置き場所を工夫してすぐに手に取ることができるような環境を整えたりして、児童の意欲向上につなげることができた。読書週間の際には、児童が本を借りたくなるような仕掛けをすることで、本に親しむ機会を増やすようにしてきた。これらが、目標数値達成につながったと考える。また、担任による読み聞かせは、児童に多くの言葉や表現に触れさせることができると同時に想像力や創造性を豊かにすることにもつながるので、今後も取り入れていきたいと考える。

しかし、アンケートの結果から、家庭においては、放課後・休日の過ごし方として、読書よりも魅力的なゲームや SNS 等に傾倒してしまい、読書の充実を図ることが難しいことが考えられる。

今後も、引き続き家庭への啓発を行いながら、学校と家庭が連携し、読書の楽しさを広げていきたい。そして、読む力の向上を図り、総合的に児童の学力向上につなげていきたい。

### (3) 「たくましく(体) ねばり強い子」にかかわる内容について

- ・運動に対する意欲と基礎体力
- ・健康・安全に留意する態度

- ① 課題であった児童による評価「**休み時間は外に出て遊ぶようにしている**」が、昨年に比べて評価が少し高くなった。

朝の学習の時間に、体育部によるブロックごとの「鬼ごっこ」を計画・実施したり、昼活動の学級の時間やクラス共遊で外遊びを奨励し、実施したりするようにして体を動かす楽しさを味わわせるようにしたことが評価につながったと考えられる。

今後も、運動委員会・集会委員会共催による楽しい運動遊びの計画も予定されており、意図的に体を動かす場面をつくり、主体的に体を動かすことが好きな児童を育てたい。体育の授業では、指導法などを教員間で情報共有し、楽しく体を動かしながら、運動量の確保もしっかりできるような授業展開を継続し、基礎体力の向上を図っていききたい。

- ② 児童による評価「**学校の登下校は、きまりを守って、きまった通学路を通っている**」が高評価である。さらに、教職員による評価「**児童の生命・安全・健康を第一に考え、安全指導を組織的に行い、問題には迅速に対応できた**」が高評価である。

登下校に関しては、PTA、スクールガードリーダー、スクールガード、交通指導員の方々と連携した交通指導、見守りを実施し、登下校で問題が見られたときには直ちに組織的な指導を行うことで、児童が安全に登下校できるよう努めている。

校内の安全に関しては、例年行っているように、安全点検を毎月月初めに行い、不備・不具合のあるものはすぐに対応するなど、児童が安全に学校生活を送れるように配慮している。防災・安全にかかわる行事では、火災・地震、不審者侵入などの避難訓練や交通安全教室を繰り返し実施して、一時避難の重要性や交通ルールを理解し遵守すること、命の大切さなどを児童に指導している。これらを確実に行うことを継続し、教職員の意識の向上を目指し、健康・安全に対する児童の態度を育成していききたい。